

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|---------------|
| 施設番号 | 66-1487 |
| 施設名 | 子どもの森ゆうばーく保育園 |
| 施設所在地 | 町田市南町田4-33-1 |
| 法人名 | 社会福祉法人貴静会 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

バスボムの観察を通じた物質の変化を体験する

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・自宅でバスボムを楽しんでいる子が多く、身近なものであったことから活動の中で取り入れやすいと考えた。
- ・実際に手作りでバスボムを作ってみるにより、どうやって作っているのかを知る。自分自身で自分好みのバスボムを選択して作るにより、選択する楽しさを味わうことを目的とした。
- ・2歳児クラスという事もあり、万が一口に入れても安全な材料を使うことにより、安心して感触も楽しめて遊べるようにした。

2. 活動スケジュール

- 1回目：10月23日 バスボムの観察（車の入った無色のバスボムの溶ける様子を観察する）
2回目：12月11日 バスボムの観察（アンパンマンの入った色のついたのバスボムの溶ける様子を観察する）
3回目：3月6日 バスボムの観察（車の入った色のついたのバスボムの溶ける様子を観察する）
※1～3回目は全て保育者が作ったバスボムを使用
4回目：3月17日 バスボムの作成（年長児とともに、バスボムを製作）
5回目：3月25日 バスボムの観察（園庭で全クラスと）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・バスボムの材料の重曹、クエン酸
- ・変化をつけるための食紅、香料
- ・バスボムの中に入れるおもちゃ（ミニカー、指人形）
- ・記録用のアクションカメラ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①バスボムをたらいの中に入れ、どんな反応をするか（溶けるのか、水の色が変わるのか）を観察。
- ②バスボムの中に何が入っているのか、どうしたら中の物がとれるのか考察する。
色付きの粉とさらさらの粉2種類を袋に入れて混ぜ、香料で匂いを付けて握って、バスボムを作ってみる。かもめ組と協力して作る。
- ③バスボムを園庭で溶かし、全クラスで溶ける様子を観察。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

<1回目>

導入で、担任が容器の中にアンパンマン人形、ソフトクリームの人形を順番に入れ、最後にバスボムを入れて子どもの発言を待った。

アンパンマン人形を入れ、「どうなると思う？」と問うと、「アンパンマンの色になる」「アンパンマンが水に入る」という発言が見られた。

ソフトクリームの人形を入れ、「アイスはどうなるかな？」と問うと、「アイスが溶ける」「アイスクリームの水になる」という発言が出た。

最後のバスボムでは、「この白いの、入れるとどうなるかな？」と問うと、「白い色になる」と言う声が多く聞こえた。

子どもたち一人一人にバスボムを渡し、「水に入れるとどうなるかな？」と言って、水を張ったたらいの中に、各自に入れてもらうと、シュワシュワという音とともに泡が出たのを見て、「あわあわになった」「白くなった」「車が出てきた」と各々の感想が聞こえ、タライの中に手を入れた子どもは「手がしゅわしゅわする」「あわあわが冷たい」という感触を楽しんだ。また、バスボムが溶け切った後の水を見て、「色が無い」「下に何か残ってる」と水の色が変わっていないことに気が付く子どもがいたり、溶け残った重曹の白い粉に気が付いた子どももいた。

<2回目>

二回目ということもあり、溶けると何かが出てくるのを理解しており、「何が出てくるの」「早く中が見たい」と溶めることに興味を持っていた。今回は、食紅で色を付けたバスボムを用意し、大きいトレイの中に玩具を入れ、固めたため、大きな塊が溶けるのを観察するという前回とは異なった状況で行った。

・水を掛けた瞬間、泡が発生したのを見て「しゅわしゅわしてる!」「ぶくぶくでてる」と興奮気味に声を上げる姿が見られた。「泡がなくなったらどうなるの?」「泡はいつなくなるの?」と話ながらも、じーっと泡がなくなる様子を観察している児が多かった。

・色がついていたため、「お水、黄色になったね」「味はするの?黄色だからレモン?」と色と果物を結び付けて考えている様子が見られた。

<3回目>

・「良いにおいがする」「色がついてるね」と見た目に興奮している子が多く、水に溶かして中身が出てくるのが待ちきれない様子だった

・「ピーズが出てきた」「キラキラが出てきた」「水がきれいになった!」「茶色の水で汚い」と中身や水の色の様子を楽しんでいた。1歳児クラスの子でも見た目の変化を楽しんでいるようだった。

<4回目>

「さらさらする」「手にくっつく」「ざらざらの粉もある」「お水入ると固まるね」と感触遊びを楽しんだ。

・水が多くて固まらなると「べちゃべちゃになった」「水みたい」「粘土に似てる」と見た目の違いを言葉で表現していた。

・バスボムが形になってくると、「丸くなった」「バスボムできてうれしい」「水が少ないと固まるの?」と子どもたちなりに考察しているような感想も見られた。

<5回目>

・「良いにおいがする」「色がついてるね」と見た目に興奮している子が多く、水に溶かして中身が出てくるのが待ちきれない様子だった

・「ピーズが出てきた」「キラキラが出てきた」「水がきれいになった!」「茶色の水で汚い」と中身や水の色の様子を楽しんでいた。1歳児クラスの子でも見た目の変化を楽しんでいるようだった。

活動の様子の写真は別紙参照

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

<バスボムの観察>

導入の時から、じっと座って何が起るのか興味を持っている子どもが多く、答えがわからない、何が起るのかわからないものを知りたいと集中する姿が見られた。初めて見る遊びやいつもと違うシチュエーションの際は、好奇心が高まるため、導入も変化をつけて引き込んでいきたい。

ソフトクリームを水に入れた際の発言では、日常生活の中でアイスが溶けるということを理解し、水の中に入れると溶けるということに結びついた様子であった。また、アイスクリームの色になるというのも、アイスが溶けてその色になるというのを理解している子がいた。一方で、アンパンマンの人形にも同様の発言をしている子もあり、まだ何が溶ける、溶けないの判断がついていない子が多いことも分かった。

最後にバスボムを入れた際には、これまでの導入の流れで、入れたものの色になるのではないかというイメージがついているように感じ、物事を一連の流れで捉えることが出来る子もいることがわかった。

実際に自分で水の中にバスボムを入れ、目の前で泡が出て溶けていく様子を見ると、溶けると色が変わる（変わらない）ということを理解している子もいれば、中から車のおもちゃがでてくるということだけに興味を持つ子、溶ける時の泡の感触を楽しむ子など、興味を持つ内容にも個人差が見られることが分かった。

今回は無色で、無臭のバスボムに車のおもちゃを入れて溶かしたが、色が変わるかどうか注目している子もいるため、バスボムを着色して、水の色が変わるのかどうか。香りをつけたバスボムを作り、においを当てたり、においと同一食べ物が出て来るときの反応をみるなど、変化をつけて反応を見ていきたい。

<バスボムの製作>

・今までは溶かすばかりだったバスボムを、自分たちで作ることが出来て楽しそうだった。
・粉を混ぜて水を入れると固まるということが、あひる組でも理解が出来ている様子で、固めることが難しい子がかもめ組に手伝ってもらいながら、混ぜる、こねるといった工程を楽しんでいる様子だった。

・香料や食紅を使い、色と匂いの違いも楽しめていた。自分好みの物を作る楽しさも感じられ、出来る限り子ども達が自分たちで選択できるような遊びも取り入れていきたいと感じた。

<全クラスでのバスボムの観察>

全クラスで観察したことにより、よい異年齢での交流の機会になった。上のクラスの友だちの言葉を聞いたり、感想を聞くことにより、下のクラスは新しい気づきを得られているように感じた。引き続き、異年齢でともに遊びながら楽しく気づきを得られる機会を増やしていきたい。